

議事録

会議名	令和3年度第2回加古川市スマートシティ推進協議会
実施日時	令和4年2月18日（金） 14:30～16:00
実施場所	加古川市役所 本館4階 企画部会議室
出席者	【加古川市スマートシティ推進協議会】 高野委員長 福田副委員長 破魔委員 山本委員（WEB参加） 野方委員 吉岡委員（WEB参加） 西尾アドバイザー（WEB参加） 川向アドバイザー 中田アドバイザー（WEB参加） 【事務局】 政策企画課 2名

会議の内容	
司 会：	事務局
配付資料：	別添1「配布資料1：情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針 指標一覧表」 別添2「配付資料2：加古川市版 Decidim の活用について」 別添3「配付資料3：スマホ講座資料」 別添4「配付資料4：スマートフォン講座アンケート結果」 別添5「情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針」 別添6「加古川市スマートシティ構想」
1	<u>はじめに</u>
2	<u>議事（1）情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針の進捗について</u> ・事務局より、推進方針概要と KPI 達成状況について報告 （意見交換） 委員：市外の居住で、加古川市に勤務している方も Decidim には参加可能か。 事務局：参加可能である。市外、海外の方も登録されている。加古川市に関心を持っている方で、加古川のまちを良くしようと思ったださっている方であれば、参加いただけることとしている。 住民投票のようなものをするとなると、住民票がなければならないなどの制約も出てくるが、そのような使い方は現在のところ Decidim 上では行っていない。 委員：年齢層でいうと若い世代が多いのか。多いのであればその理由は何か。 事務局：登録者の約4割が10代、20代である。加古川市の活性化をテーマにした大学のゼミで使用したり、高校の授業で使用したりしているため、若い世代のユーザが多くなっている。 また、Decidim の議論構成はオンラインとオフラインを融合して、議論を行うという特徴がある。オンラインでの意見募集だけでなく、オフラインで

のワークショップも開催しているためデジタルを使えない方にも市政に参画いただける仕組みとなっている。

2月上旬に実施したワークショップには、様々な世代の方にご参加いただいた。多様な市民からの意見募集ができています。

一方で、若い世代の意見を今まで行政が聞く機会は多くなかったが、Decidimのようなツールに若い方が慣れていけば、市政に関心を持っていただく機会・手段になるとともに、今後の若い世代の政治参画にも寄与できるのではないか、と考えている。

委員 : 重要なのは登録者数ではなく、実質利用しているユーザ数である。実質的なユーザを増やすためにはどうすればよいか。

事務局 : 若い世代の方は、割と短い文章を投稿するという傾向がある。短い投稿が増えれば、ハードルが下がり気軽にコメントしていただけるようになるのではないかと。

委員 : 市内の事業者の社員にも使っていただけるような工夫があればよい。ただ、市職員以外がDecidimの説明をできるかどうかは不安である。

事務局 : 社員向けのレクチャー、勉強会の実施なども可能。

委員 : 論議される内容が非常にアクセス数、コメント数に関わってくると思っている。複合施設の愛称募集などは、親しみやすく、議論が活発化していた。やわらかいテーマを多少入れていくことによって参加しやすくなるのではないかと。

事務局 : 課題の設定が重要となる。しかし、行政には絶対間違いがあってはいけないというような意見が多いように思う。そのため、課題設定が難しく、意見募集を実施しにくいという問題もある。

加古川市版Decidimについては、導入から現在まで手探り状態で運用してきた面もあるが、ユーザやコメントが増えることによって、議論だけでなく、運用方法もブラッシュアップできつつあるのではないかと考えている。

アドバイザー

: Decidim上で質問を投げると答えが帰ってくるのが一番早い。そのような方向性を目指せばよいのではないかと。

困っていることを書き込めば、市の職員に限らず、誰かが答えてくれる。そうすると使われ方も変わってくるかなという印象。

事務局 : 共助の考え方を普及していくことは重要である。

委員 : 民間企業とのデータ連携件数が増えてきているが、具体的にどのような内容か。

事務局 : 実証実験等の件数を計上している。

例えばアンクルバンドを用いた実証実験では、アンクルバンドから筋力データなどの健康データを取得し、健康状態の見える化、必要なタイミングでの改善アクションの通知を実施し、高齢者の運動不足解消・健康増進を目指している。

また、レンタサイクルを活用した実証では、取得した走行データ等を用いたデータ連携を実施した。

4 議事（2）加古川市版 Decidim の活用について

- ・事務局より、加古川市版 Decidim の活用状況について説明。

（意見交換）

委員 : 加古川市のホームページに加古川市版 Decidim へのリンクを掲載していることは評価できる。

Decidim 上に投稿されたコメントについて、新着情報が取れるような仕組みを構築してはどうか。RSS 機能があればより利便性が向上するのではないかと。せっかく良い議論をしているのに、知らないまま終わっていたということがないようにする仕組みは必要。

事務局 : 事務局は専門的な技術を持ち合わせておらず、運用保守をお願いしている事業者に要望することしか現状できない。ぜひ、そういう技術をお持ちの方は、お力添えいただければと考えている。

市の公式 SNS アカウントと連携し、加古川市版 Decidim へのリンクを掲載している。市の公式 SNS で Decidim の投稿のお知らせを流すことも検討する。

加古川市版 Decidim にもニュースレターの配信機能はあるが、希望する人にしか通知が届かないため、周知が徹底できていない現状である。効果的な情報発信の手法は今後も検討する。

アドバイザー

: ワークショップなどのオフラインでなされた議論は、どのようにオンライン上で共有されるのか。

事務局 : オフラインワークショップでは、模造紙に付箋を貼って、最終的には模造紙にまとめて発表する、という形式で実施している。その模造紙をカメラ等で撮影し、画像データをオンライン上に掲載している。

また、議論を簡単なサマリーとしてまとめ、こういった形でオフラインワークショップを実施しました、という報告を上げることで、ワークショップに参加できなかった人にも共有している。

アドバイザー

: 課題、議題を出すのは事務局側のみか。Decidim の利用者が意見募集することは可能か。

事務局 : 参加者がディベートページを立ち上げる機能は Decidim に備わっている。

しかし、市に対する要望が多くなることも想定され、本来の使い方、目的から大きくずれる可能性もあるため、今現在は、その機能は使用していない。今後の検討課題としたい。

5 議事（3）デジタルデバイド解消に向けた取り組みについて

- ・事務局より、スマホ講座の実施状況及び実施後のアンケート結果等について説明。

（意見交換）

委員 : スマホ講座には、複数回参加されてる方がいるという理解でよいか。

事務局 : 講座内容は同じになるため、複数回の参加は認めていない。

加古川市はキャッシュレス決済のキャンペーンを実施していたことが影響し、キャッシュレス決済の使い方を教えて欲しいという要望が多かった。

1月、2月に実施したスマホ講座については、セブン-イレブン・ジャパンからキャッシュレス決済に関するリーフレットを提供いただいたので、講座の際に配布し、場合によっては、その場で説明するなど、臨機応変に参加

者の要望に対応した。

委員 : i P h o n e と A n d r o i d の違いによる講座への影響はあったか。

事務局 : 高齢者の方はA n d r o i d の使用率が多い傾向にあった。また、らくらくホンをお持ちの方も多く、講師やサポートを担当した若手の職員も説明に戸惑った。そういう意味では講師、若手職員のリテラシーの向上にも寄与したのではと考えている。

6 閉会

- ・事務局より、次回の協議会の開催については、改めて日程調整を行う旨説明する。